



Title	社会学特講
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1963
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77372
Type	manuscript
Note	大学院社会学特講 修士課程
File Information	N032_01S38..pdf



[Instructions for use](#)

Standard Note

MADE OF FINEST PAPER
PREPARED IN TOKYO

大学院 論
社会学特講

修士過程

三十八年度

ESD
WA
30

ES

国策パルプ専工場特選紙使用

ESD - NOTE

関する理解に
に就くこと

は各園に下がある。

村野の著書も本清の著書と異なる。

日本の社会の社会構造における階級

日本の社会の最高とRole 最低のstatus

Roleの構成における階級の理解は必要である。

民衆的ない日本社会の社会構造は

適用し得ぬ。然し日本の社会の一つの視

解には社会構造の理解は必要である。

集団の組織的構造による社会構造の理解は必要である。

何かその社会生活における基本的枠組であるか

何かその社会生活における重要な関心であるか

これを知らねば、社会生活の大きな変革が

中心として行われるかを明しかにしなければならぬ。

井

清我構想

□ 民衆社会における都市の配置

大中の都市、府県庁都市、

都市の機能、都市と準都市

民衆的交流の機能、都市の本質

都市性の条件

機能と生産

都市と農村

民衆的交流の内容

民衆的交流の完結

□ 民衆社会の完結、横浜沖の外口問題

このアナリチ

□ 民衆社会の都市と農村の相互関係

世

現在の日本の国民は有進な結果の

生活形式の変革を行いつつあるから、これは

その一つである。これは純然たる実証である。

氏変革の足場となつて、（不言伝、人に措成程、知機成化）

下である。変革の中、（衆多の機同）

における活動を見よるによつて知る可い出来

る。今最も恐らく拡大発展して、（衆多の機同）

は技術的機同等に工場生産活動であ

る。今日日本は工業の体制より俄かに工業

の化の躍進を（はしめ）たのである。

機同や（商業）機同の随伴的躍進は

当然である。そこには原因結果が恐らく互為的

④

し合つて、上り下りも横にもつたか、（衆多の機同）

こいよ。

国民の社会関係の周辺を形づくるとの

としての口境線。

④

これ等の事実を組織的に理解する。これは都市の()民社会における機能。その機能は都市で果たし、この結果的機能について論ずべきである。

都市の()民社会における結果としての

機能。この機能を果たすための都市

の配置と機能の種別。口まの

の法上について説明する。

説明のためには、まずその前提条件として

とされる。



これは口民社会を法上のものとする。

府とその活動の基本的組織を

らかに示すものである。

交流現象の拡大
都市の早や、
交通網の整備
（早や）
ハイスピードカー、テレビ、ラジオ、
ガソリンと電気の文明

同じ

1. 都市理解のあり方としての都市機能

2. 都市構造論 都市と人の二元性

3. 町村合併と都市

4. 交通現象と都市の配置と首都

交流の増大と交流政策の増大
交流施設の増大

5. 日本都市の発展と近代化の過程

6. 日本都市の発展と近代化の過程
1. 都市の発展と近代化の過程
2. 都市の発展と近代化の過程
3. 都市の発展と近代化の過程
4. 都市の発展と近代化の過程
5. 都市の発展と近代化の過程
6. 都市の発展と近代化の過程
7. 都市の発展と近代化の過程
8. 都市の発展と近代化の過程
9. 都市の発展と近代化の過程
10. 都市の発展と近代化の過程

結晶的構造の分類と生業

九種の機関

1. 販賣機関
2. 技術機関
3. 交通機関
4. 通信機関
5. 行政機関
6. 治安機関
7. 教育機関
8. 文化機関
9. 娯楽機関

統治の諸部

政治機関と行政機関

機関の機能——恩恵の例

人の生活には必要な機関 (1, 2, 8, 9)

行政機関に必要な機関 (3, 4, 5, 6)

九種の機関

市民社会内に都市の設置

都市は政治の據り手

首都 樹枝状の流布、政治中心

上下的交流 同位交流の拒否

日本においては都市は首都から

歴史的に「一連的」な構造

境界を限界とする社会的交流

二十五年四月九号の首都~~性~~性について

日本の統治文化

多层的口家統

口家統の大小や都市のヒールター。

横にも縦にも同連しあつていふ都市。

都市の大小と横断の大小地位の上下、階

の上下、収入の多少、生活水準の上下、文化

の上下

完結的なるこの口民社会

口民社会内の相互的交流組織

首都中心の交流、地方都市は

結節点、通過点、首都は

新文化の製造工場

口民のどの一軒の家族にも政府

の指令命令が達する^{威力、威力}構造を構へ、^{合理的な}

どの一軒からいふ口の中央に逐次

と素と構えてあるか、それは文化

口民総知事長の体制と同じ。

○ 都市計画と調査(普嘉歌)

口民生活の大綱は皆首都に集ま

このよ。中央の大様同の活動のし^{方式}が、末
端を置く。今中央の協同は、とも引くして
既述して、よめ口民の末端を、その余
波、たんでいよ。

今は特に統合活動が凡をなして、
よ。孤立するものは、いよ。

(可) 統合係、邦市、広域共同、互済

世界の政策も同類、團結の傾向、

企業界も合同、個人^{共同}、株式會社も

口民の團結強化の、の都市化、首都

(の) 直結、

首都の兩地、

第三回 (六月十日)

交流の内容 人と機関

調整の限界 (過化調整)

機関の習に及ぶ時の人の行動、計算機、合戦

二機関の層とは何れか、時の人の行動、有情者

都市の生活 - 合理的 - 機関の活動 - 例外小集団

都市の生活 - 有情的 - 有情生活 - 例外小集団

人の都市生活

職場 (機関) - 計算機
世帯 (家族) - 愛情的

都市の社会構造 - 世帯と職場

第四回 (六月十日)

首都を中へつた交流路線

首都

首都の中へつた交流路線

北交流

北交流

中国

中国

日本

地方中核の根

首都に依る羽織つはワオ (大綱の)

政

政 (民生生活子配の最速力活動)

東京の社会的機能

① 巨大都市 ② 首都

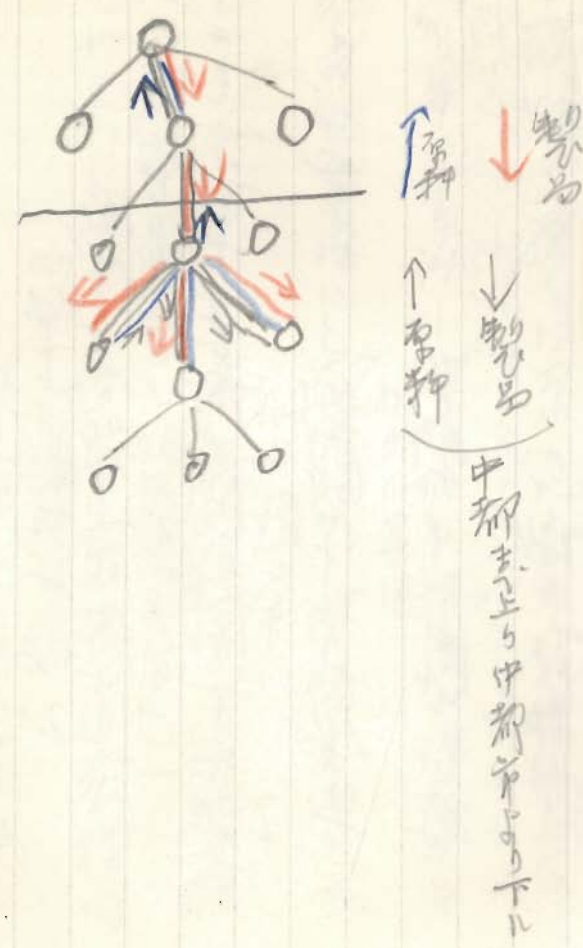
③ 中世都市 ④

⑤ 新文化製造工場

⑥ 交流の始発地

マスコミ、工場、商業、散光、文芸、芸術の中心地

北海道の又先般の大倉元の本長副本吉は
 いかに偉い人か、道内が重要か、その事よ出
 張所の活動如何
 生産活動の自然的立地と経済的立地
 可成り重要



都民の
 生産

個人所得

九四、〇〇〇月
 均才近く

口民一人当り収入の二倍近く、東京市
 民一人当りの収入は遠し。

都民一人当り個人所得一八四、一六九円
 月一五、三五〇 五人の収入七六、七五〇

最高一戸所得者は年三億円近く
 最低所得者の約十倍の所得、億二千円者
 五三万五千元用茶

消費レジャーに便せ、一月七、一〇〇円、日本一の
 万の位の神守り物五、〇四七と大きな差

都民の四人に一人が学校生徒二五五人

高級ホテルの宿泊料は五、五〇〇円 最低は百円

生産力も消費力にも格差が
 過大である。

六回 九月七号

此を以て絶対を起矢として認識を正
か可きよ。

日本の現時は激変しつつあります。

激変の認識の必要

三、何れに於ける激変の調査

都市化現象の理解

七回 (十月十五日)

時代#

九月二十四日 初寫の日
十月一日 假の爲欠
十月八日 假の爲欠

祝言と子牙

※旧体制による異國(自主と宗姓)地方と作業の
解体による他人主権化し、新体制の異國
化の激増

他人主権化と異國主権化

利害共同の組織化、従来文化、大規模代激化
通化交流機関の発展による激化

学術組合 最多数団体人口

宗教団体 思想的最近代的

文化団体、旅行団体

人民権

国家権力団体 最強力組織、武力

政權最近巨団体

地域団体—自主的最大の権力統一作として
イナオロキー団体

大口依存圏の形成 (二化交流機関の発展)

二口家の分裂 中口、郭群、トイフ

敵味方の二分 他力的分裂部か
新しい帯口を我的拡大

2 3 4

形 2

形 1

互にその魂海がこわいのではなく相争の兵
力かこわいのである。ウエーバーが持つ五原は若力
を待つ唯一の厚い魚。
世界は今や戦い時代の相争。

八回(十月二十日) 拙宅

品及カ団体はとれか

左か

右か

右の端は、入りに正しく、し、余の過ちの
研究の地獄して過した。

即ち

民主的・全視主義的・人同的・即ち

疎外されたい人同の關係で、

九回 十月二十九日 (秋安の北)

現在日民の生活は、あつて集團化
大集團化の傾向が、増々急増
しつつある。

地縁・血縁、親子分の縁に
のり結ばれ、種々の取はかたわつて

都府は馬の鼻をぬき、と、舞臺の

いゝと云ふ位せしめられて、素朴な

態度から、愛しつゝ、と、たぬき

て、見知らず知らずの人と容易に近つ

た、行動を著しい協力を仰ぐれば、不

都合の、他、ア、カ、人の、態、

それか、社会的な交流機同の、急増

共進化して来る。人間関係の質
的変化である。

多量団体、旅行、見学、講習

同僚、^山、^{世相の中}、^{現代}、^{漸次}、^{成長}、^{進化}

職場の組合、思想団体、^{我々}、^{我々}、^{我々}

作、政黨団体、趣味団体

人種、民族の団体は作れば済むか

容易に組織化して行く。目的意識が弱くなる

どの団体も、 家族同様に支配する

地位に在れば皇族の団体となる。

家には武力が設備されてゐるから

である。同僚はどの団体が皇族

共の激化して来る。人同国同の體
的変化である。

昔多集団体、松行、見な、清習

同種な現代の世相の中、現代に於て漸く成りては

職場の組合、思想団体、我黨系団体

作、政黨団体、遊味団体

人種、民族の団体は作れば強いが

容易に組織化して行く。目的意識が著しく

どの団体も、□家機關を支配す

地位に在れば、皇族の団体となる。

□家は、武力が設備されてゐるから

である。同種は、どの団体が、皇族

早く

古い口民の結集は土地と操縦術
作(それか、コミュニティー)の作(それか)

今は目的集団による統治組織の結集力

団体。土地は外への如き活動節の為に最も

重要のものであると思われている。

口家は人か人を支配する場の集合

最も効力な装束下である。

内閣と階層と武力と官位と土地改革

とはこの装束の主要部分である。

政權に近づくるが、出来ずかたである。
今ではどの団体でも可能ではある。
格だが、結果では勝つは官軍
敗ければ賊軍。うっかりすると
永遠に賊軍になる。恐れがある。

十四十一月五日

今日は揚屋の片敷宅へお、華唄の
たを、おしれた、お、片敷の、清和也、お、それ
今日行、お、今日は山佳、揚、平田出席。

十一回十一月二十日(水) 花電講義

後述の地牙ルおけは及乱ク、テター、世革命
字の駁、子にフ、ニ。コングの成乳に思子)の
子の批判。

右の意見、平田、妹、原、素、満

十一月二十七日

今日は明日の講演準備のため満
ち告知してのちには僕も持てたは
来禮。日本語の初級四段活用は
よいと教えた。

十巻目 (十二月四日)

病所の仰臥中なりしと云ふ山雀君
来。マイノリライグールフはフいで
行す。

十四回 (十一月十一日)

本日午後最終日。

主査 齋藤 心平 氏 氏。

一月五日

揚女素・病後より論文の
を許可

九十編
千一又ルフ
いての
讀令